

# 千葉市緑と水辺のまちづくりプランの進捗状況について（中間評価） （計画）

## ○ 中間評価の背景

本計画は、豊かな緑と水辺を次代に引き継ぐため、市民、企業など多様な主体と行政が連携して取り組む、緑と水辺のまちづくりの基本方針を定めたものであり、平成24年3月に策定されました。

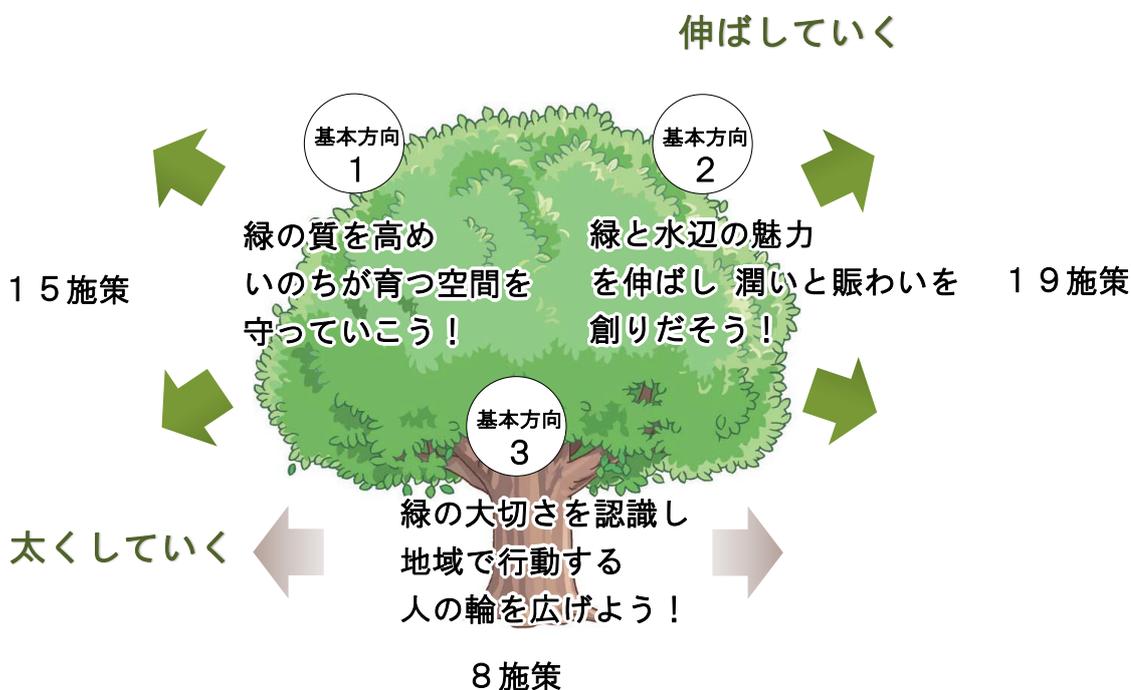
計画期間は策定から10年間となっており、計画の概ね中間年次（半分である5年経過時点）に、進捗状況を把握し必要に応じて内容を見直すこととしています。

そこで平成27年度末時点における、3つの基本方向に定める施策の進捗を確認し、基本方向ごとの評価と課題を整理することとしました。

※ 緑地の確保目標（[参考](#)に記載）については、中間時点で数値を把握できないものがあるため、評価の対象から除いています

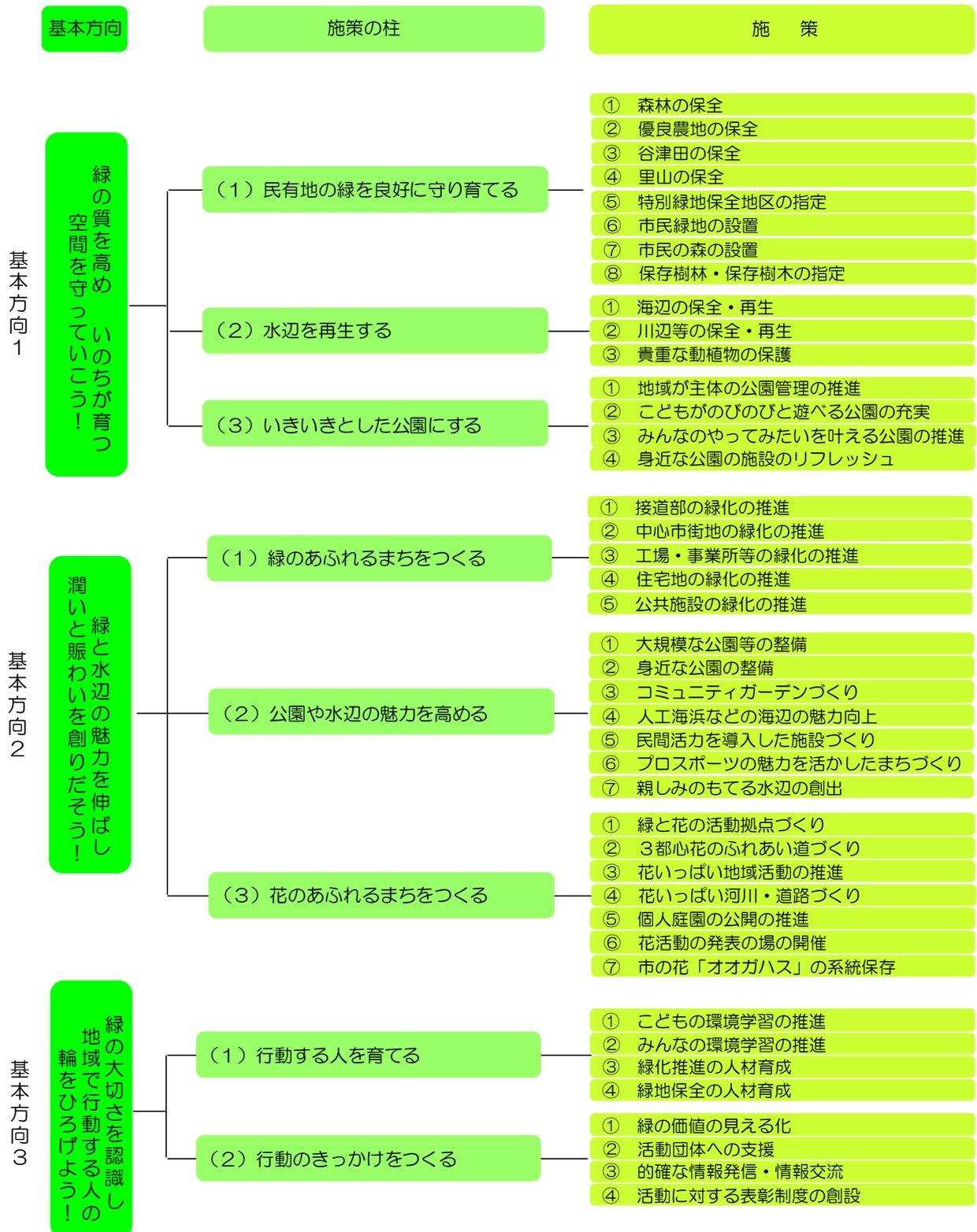
計画のテーマ：みんなの手で育みつなごう！緑と水辺

## ○ 計画に沿って取り組む3つの基本方向



「基本方向1」と「基本方向2」を枝葉に、「基本方向3」を樹木に見立てたイメージです。枝葉（質や魅力の向上）をより大きく伸ばしていくためには幹（多様な主体の連携・協力）をさらに太くすることが必要です。

計画に沿って取り組む3つの「基本方向」及びそれを構成する施策の柱、主な施策は以下のとおりです。



## ○ 中間評価の方法

計画の3つの基本方向について、中間年次でどの程度実現できているかを把握するとともに、取り組みを推進する上での課題を把握する必要があります。

そこで、各施策の進捗を5段階（又は3段階）に区分し、それを基本方向別にまとめ、A～Eの5段階で評価することとしました。

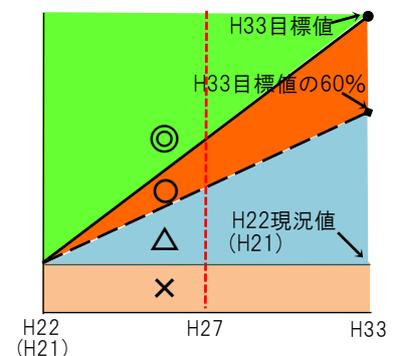
### [各施策]

数値目標あり：施策ごとに中間年次での数値を達成しているか → 5段階評価

数値目標なし：施策ごとの中間年次での進み具合 → 3段階評価

区分	計画策定時の数値目標	
	あり	なし
◎	目標値を達成	
○	目標値の60%を達成	取り組みが進んでいる
△	目標値が60%未満	
×	策定時を下回る	策定時を下回る
—	実績なし	実績なし

数値目標ありの場合の評価区分



### [基本方向]

評価	基本方向の評価（各施策の平均点）	
A	指標のほぼ全てが◎	十分成果が現れている
B	◎や○が6割を超える	かなり成果が現れている
C	◎や○が半数程度	順調に成果が現れている
D	△や×(—)が6割を超える	あまり成果が現れてない
E	指標のほぼ全てが×	成果が現れていない

## ○ 施策の区分と基本方向の評価結果

◎や○の割合

基本方向1 緑の質を高め いのちが育つ空間を守っていこう！

13/15 施策 (87%)

評価 B

基本方向2 緑と水辺の魅力を伸ばし 潤いと賑わいを創りだそう！

8/19 施策 (42%)

評価 C

基本方向3 緑の大切さを認識し 地域で行動する人の輪を広げよう！

6/ 8 施策 (75%)

評価 B

○ 基本方向ごとの評価（○）と課題（◆）

※ 各施策の進捗は、別紙1参照

**基本方向1 : 緑の質を高め いのちが育つ空間を守っていこう！**



(1) ⑥市民緑地の設置  
(若松こもればの森)



(3) ②こどもがのびのびと遊べる公園の充実  
(プレーパーク)

**事例紹介：(3) ③みんなのやってみたいを叶える公園の推進 (パークマネジメント)**



豊砂公園（美浜区）では、地域と協働で公園の管理・運営を行う「パークマネジメント事業」により、イオンモール株式会社が管理・運営を行っています。

民間事業者の視点を生かした賑わいづくりとして様々なイベントが開催され、地域特性のある、楽しめる公園となっています。

**評価と課題**

- 多くの施策で順調に取り組みが進められています。
- 特別緑地保全地区の指定や市民緑地設置など、市が実施主体となり緑地を担保する施策は成果を上げています。
- 砂浜でのハマヒルガオの植栽や河川の水質調査など、海辺や川辺の保全・再生の取り組みが進められています。
- 住民の公園利用や参画を促進するプレーパークやパークマネジメントは、徐々にではありますが実績も増加しています。これにより、住民が主体となった、住民目線での公園利用・管理が事例として広がりつつあります。
- ◆ 森林や保存樹木（樹林）の面積が減少しています。所有者の高齢化や相続など減少理由は様々ですが、緑の大切さの普及・啓発に引き続き取り組み、緑を残せるよう努める必要があります。

**評価 B**  
(かなり成果が表れている)

## 基本方向2 : 緑と水辺の魅力を伸ばし 潤いと賑わいを創りだそう！



(2)④人工海浜などの海辺の魅力向上  
(千葉中央港地区)



(3)③花いっぱい地域活動の推進  
(花いっぱい市民活動)

### 事例紹介：(2)⑤民間活力を導入した施設づくり(ザ・サーフ オーシャンテラス)



本市の海辺の魅力を高めるため、稲毛海浜公園において、民間活力導入による公園施設の整備を行いました。

検見川地区は、マリンスポーツや東京湾越しの夕日を楽しめるエリアです。

海辺の眺望を楽しめるレストランやカフェなどができたことで、新たな人気スポットとして賑わっています。

評価 C

(順調に成果が現れている)

### 基本方向2「緑と水辺の魅力を伸ばし 潤いと賑わいを創りだそう！」

- 身近な公園の整備や海辺の魅力向上など、公園や水辺の魅力を高めるためのハード整備は順調に進んでいます。
- 昭和の森や稲毛海浜公園では、民間活力導入により公園施設が整備され、賑わいづくりや利用者サービスの向上など、公園の新たな魅力が創出されています。
- 市の花「オオガハス」の系統保存は継続的に実施されているほか、オオガハスの開花時期に合わせたイベントも年々充実し、その歴史的価値や魅力に対する理解が進んでいます。
- ◆ 市民や事業者が実施主体となる「緑のあふれるまちをつくる」「花のあふれるまちをつくる」で遅れが生じており、活動主体の拡大、広がり課題です。
- ◆ コミュニティガーデンづくりなど、新規事業の4件でまだ実績がありません。市民・事業者の活動や利用促進つなげるPR活動、サポート体制の充実が必要です。

### 基本方向3 : 緑の大切さを認識し 地域で行動する人の輪をひろげよう！



(1) ①こどもの環境学習の推進  
(緑の出張教室)



(2) ②活動団体への支援  
(縄文小倉の森での植樹)

#### 事例紹介：(1) ③緑化推進の人材育成（緑と花の地域リーダー）



市は、市民が主体となる「花のあふれるまちづくり」を進めており、その中心とした活躍が期待されるのが「緑と花の地域リーダー」です。

半年間の養成講座を修了し、一定基準を満たす場合に認定されます。

これまで 169 名が認定され、地域の緑化活動で活躍しています。

評価 B  
(かなり成果が表れている)

#### 基本方向3「緑の大切さを認識し 地域で行動する人の輪を広げよう！」

- こどもの環境学習推進や、地域リーダーなどの人材育成といった、行動する人を育てる取り組みは順調に進んでいます。みどりの大切さを共有する活動を今後も継続することが、行動する人の輪の広がりにつながります。
- 緑地保全や緑化に係る行動のきっかけづくりとして、植樹活動のためのフィールド提供を行っています。身近な公園での企業の社会活動は、見える形での社会貢献ですので、市民の緑の大切さを考える機会にもなっています。
- ◆ 新規施策（緑の価値の見える化／表彰制度創設）は未実施です。新たな行動のきっかけづくりに、市も取り組む必要があります。

① 国土交通省による「新たな時代の都市マネジメントに対応した都市公園等のあり方検討会」最終とりまとめ

平成28年5月に、社会の成熟化、市民の価値観の多様化、社会資本の一定程度の整備等の社会状況の変化を背景として、新たなステージへの移行に向けた、今後の緑とオープンスペース政策が重視すべき3つの観点が提示されました。

1. ストック効果※をより高める
2. 民との連携を加速する
3. 都市公園を一層柔軟に使いこなす ※ 施設（資産）が有する機能

☞ 計画でも、公園のストック活用（P20）、民間連携や公園の柔軟な運用（P26）を記載しており、内容の整合は図られています。

② 都市公園法等の改正による運用指針への適合

「地域の自主性及び自立性を高めるための改革の推進を図るための関係法律の整備に関する法律」を受けた都市公園法、都市緑地法が改正され、都市公園の配置及び規模に関する技術的基準は地方自治体の条例で定めることとなりました。

また、平成23年度に国土交通省の作成した、都市緑地法運用指針の参考資料「緑の基本計画における生物多様性の確保に関する技術的配慮事項」を反映する形で、運用指針も改正されました。

- ☞ 本市でも条例改正により、一定規模を有する公園内の建ぺい率緩和を行いました。
- ☞ 計画は都市緑地法運用指針の内容に対応※しています。
  - P12・13 中核・拠点・回廊・緩衝地区に対応した緑の方針図
  - P18・19 多様性に富んだ環境創出、貴重な動植物の生息・生息地の保全
  - ※ 「技術的配慮事項」の詳細内容までは含んでいません

③ 千葉市「海辺のグランドデザイン」「都市アイデンティティ戦略プラン」との整合

計画策定後に、本市の地域資源を生かした魅力向上についてプランが策定されており、公園関係の資源も地域資源の1つとして位置づけられました。

人工海浜と大規模公園が広がる海辺エリア、オオガハスを本市固有の歴史やルーツに根差したものとして、千葉市らしさにつながる取り組みを進めることとしています。

- ☞ 計画でも海辺の魅力向上（P25）やオオガハス（P29・30）関連施策があります

## ◎ 中間評価のまとめ

### < 1～3の基本方向について >

- ・ 個々の施策の進捗に差はあるものの、方向全体として進捗は順調と言えます。特に、市が主体的に実施する施策については、成果として形に現れています。
- ・ 今後は新規施策や官民連携による事業の取り組みを強化し、市民や企業など、多様な主体による活動を推進・促進する必要があります。
- ・ また、緑の重要性を認識・関心を高める普及・啓発活動は、「行動する人の輪をひろげる」ための根底となる大切な取り組みですので、あらゆる機会を通じて実施する必要があります。

### < 見直しの有無について >

- ・ 中間時点において、本市の緑と水辺のまちづくりと基本方向、施策に大きな不整合は生じておらず、また、計画策定後の法改正などの動きとも概ね合致しています。
- ・ このため、計画見直しは行わず、現計画を引き続き推進することとします。

そこそこ都会で そこそこ田舎の千葉って 最高 !



花のあふれるまちづくり  
シンボルキャラクター  
ちはなちゃん

本市は首都圏の主要都市でありながら、豊かな緑と水辺が残っており、まちなかと自然が近い距離に位置しているのが特徴です。  
この豊かな環境を財産として、みんなで育て、守っていきましょう。

参考

緑地の確保目標

「緑被地の確保目標」が調査未実施のため、今回の評価対象から除いています。  
また、アンケート調査の実施時期との関係から、現況は平成26年度末としています。

項目 \ 年度	平成22年度 (策定時)	平成26年度 (現況)	平成33年度 (目標)
市街化区域内の緑地の 確保目標	1,330 ha 10.3%	1,309 ha 10.2%	1,410 ha 11.0%

項目 \ 年度	平成21年度 (策定時)	平成26年度 (現況)	平成33年度 (目標)
緑被地の 確保目標	13,168 ha 48.40%	把握していない 調査未実施	現状維持
※ 市内の花や緑は豊かだと感 じている市民の割合	62.30% (誤差±1.75%)	61.4% (誤差±3.03%)	7割以上
※ 身近な水辺に親しみを感じ ている市民の割合	36.40% (誤差±1.75%)	46.7% (誤差±3.10%)	4割以上

※ 市民1万人のまちづくりアンケート（平成27年1月6日～1月27日）結果より